

稲作農家 各位

山武稲作情報 第4報(2015年7月15日発行)

山武農業事務所 改良普及課

電話 0475-54-0226

FAX 0475-52-7914

山武地域の生育状況

4月植えのほ場は出穂期を平年並み～3日程度早く迎え、5月植えのほ場は平年並みとなっています。しかし、梅雨入り以降の日照不足や気温が低かった影響から、ほ場によるばらつきが大きくなっていますので、ほ場毎に生育を確認し、遅れないように病害虫防除を行いましょう。

参考 山武地域の生育状況

品種	場所	年	移植日	幼穂形成期	出穂期	カメムシ防除適期	
						1回目	2回目
ふさ おとめ	山武市 (白幡)	27	4/27	6/14	7/13	7/15	7/22～29
		26	4/26	6/14	7/10	7/13	7/20～27
		平年値	4/26	6/17	7/10	7/13	7/20～27
ふさ おとめ	山武市 (成東)	27	5/1	6/16	7/13	(7/15)	(7/22～29)
		26	5/1	6/18	7/14	7/15	7/22～29
		平年値	4/30	6/21	7/14	7/16	7/23～30
ふさ こがね	山武市 (成東)	27	5/1	6/18	(7/16)	(7/19)	(7/26～8/2)
		26	5/1	6/20	7/16	7/17	7/24～31
		平年値	4/30	6/24	7/17	7/18	7/25～8/1
コシ ヒカリ	東金市 (北之 幸谷)	27	4/25	6/17	(7/16)	(7/18)	(7/25～8/1)
		26	4/19	6/22	7/19	7/22	7/29～8/5
		平年値	4/22	6/26	7/21	7/24	7/31～8/7
コシ ヒカリ	山武市 (成東)	27	5/1	6/24	(7/20)	(7/23)	(7/30～8/6)
		26	5/1	6/24	7/22	7/24	7/31～8/7
		平年値	4/30	6/29	7/23	7/26	8/2～9
ふさの もち	山武市 (成東)	27	5/11	7/1	(7/23)	(7/26)	(8/2～9)
		26	5/9	6/30	7/25	7/27	8/3～10
		平年値	5/9	7/3	7/27	7/30	8/6～13

平年値は過去5年間の平均値データ。幼穂形成期は幼穂長1mm以上の稲が80%以上となった日。

出穂期はほ場の40～50%が出穂した日。出穂期・防除適期欄の()は今年度の推定日。

今年度から大網白里市高島のふさおとめのほ場が山武市白幡に変更となりました。

郵便で受け取っている方へお願い

稲作情報の配信を、郵便から電子メールまたはFAXに切り替えています。
電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。

連絡先 堀 s.hr22@pref.chiba.lg.jp、0475-54-0226 (電話)

この情報は、山武農業事務所のホームページでも公開しています。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-sanbu/sanbu/gyoumu/gijutsujohou.html>

カメムシの防除

等級落ちの原因となるカメムシ類による斑点米は、特に、周囲のほ場と出穂時期が異なるほ場で、集中的に被害が出やすいため気を付けましょう。

病害虫発生予報(7月8日付)では斑点米カメムシ類の予想発生量は大型カメムシ類(クモハリカメムシ、ホソハリカメムシ等)「並」、カスミカメ類「やや多」となっています。ほ場をよく観察し、適期をのがさず防除を行いましょう。

カメムシ類防除の適期

① 穂揃期(8~9割の穂が出たころ)

⇒周辺の雑草地等から飛来してきた成虫を防除します。

この時期に穂を加害されると、不稔やしいな粒が発生し、減収の要因になります。

② 出穂15日後頃(乳熟期のころ)

⇒穂揃期に飛来した大型カメムシ類の幼虫が穂を加害するのを防除します。

カメムシ類の発生が少なければ、この時期の1回防除で効果があります。

乳熟期以降に穂を加害されると、斑点米が発生します。

※収穫期に近い時期での防除となりますので、薬剤の収穫前使用日数に注意してください。

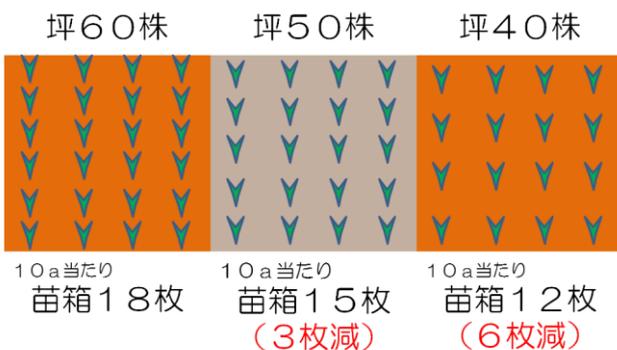
来年に向けて 水稻の省力化技術：疎植栽培

疎植栽培は、株間を広げて移植することで栽植密度を減らし、使用苗箱数を削減する技術です。

明確な定義はありませんが、慣行栽培の株間18cm(坪60株植え)を25~30cmに広げ、苗数を慣行の8割(坪48株)以下程度にするのが目安です。育苗作業を省略することはできませんが、使用苗箱数が少なくなるため、苗の管理や移植の際の労力、育苗の資材を削減することができます。

近年は田植機に疎植機能が装備されているものも多くなっています。

疎植栽培の苗箱数削減効果



疎植栽培の注意点

疎植栽培の稲は、穂数が少なくなりますが、一穂粒数が多くなり、収量を確保します。そのため、天候等の影響により、慣行栽培に比べて減収程度が大きくなる場合があります。

また、早生品種は、生育期間が短く、天候によっては穂数が確保できず減収する場合があるので、疎植栽培には不向きです。

コシヒカリは、玄米粗タンパク含有率が高くなり食味が低下する場合がありますので注意が必要です。

お詫びと訂正

山武稲作情報第3報において、誤りがありました。正しくは以下のとおりです。お詫びして訂正いたします。

【訂正箇所】山武地域の生育状況(参考)

(誤) ふさおとめ 大網白里市 → (正) ふさおとめ 山武市